

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	4-2-1		事業名	環境保全型農業支援事業
担当	経済局農政部農業支援センター 萬 順一 Tel.787-2220			
全 体 計 画				
事業内容	<p>畜産農家の良質堆肥を耕種農家へ供給する、耕畜連携システムを構築することを目的として、堆肥投入による「土づくり」の効果を実証し、堆肥利用を促進する。</p> <p>多忙な畜産農家に代わり家畜排せつ物と剪定枝チップなどを使用した堆肥製造をコントラクター(農作業受託者)により行い、また、多くの耕種農家では堆肥散布機械を所有していないことから、堆肥散布作業においてもコントラクターにより行い、結果として、地域における耕畜連携が図られる。事業参加耕種農家では、参加初年度のみモニターとしてコントラクターを利用して堆肥を散布し、次年度以後は畜産農家と耕種農家の個々の契約により堆肥利用を継続する。</p>		＜年度別の事業内容＞	
			<p>①コントラクターを利用した耕畜連携システムの構築 H19～H22:毎年、新たに事業参加する耕種農家5戸、10haの農地に300tの堆肥を散布</p> <p>②新技術現地試験圃場の設置 H19～H22:ホウレンソウ、コマツナを対象とし毎年1～2圃場で実施</p>	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	<p>①コントラクターを利用した耕畜連携システムの構築 当初の予定通り、1戸の畜産農家の家畜排せつ物を原料としコントラクターが製造した堆肥を、耕種農家に散布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散布量:305.4t ・散布場所:北区篠路地区 ・散布面積:10.18ha ・散布農家戸数:5戸 <p>②新技術現地試験圃場の設置 環境保全型農業に対応する局所施肥技術について技術の啓発普及を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施品目:コマツナ、ホウレンソウ ・実施場所:西区、南区 ・実施面積:6a ・実施農家戸数:2戸 		<p>①コントラクターを利用した耕畜連携システムの構築 当所の予定通り、今年度、新たに事業参加した農家に前年度と同程度の堆肥を散布した。</p> <p>○新規分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散布量:301.8t ・散布場所:北区篠路地区、東区東雁来地区 ・散布面積:10.06ha ・散布農家戸数:5戸 <p>○継続散布分との延べ合計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ散布量:607.2t ・延べ散布面積:20.24ha、 ・延べ散布農家戸数:10戸 <p>②新技術現地試験圃場の設置 局所施肥技術の各作期に応じた施肥肥料の検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施品目:コマツナ、ホウレンソウ ・実施場所:西区、清田区 ・実施面積:4a ・実施農家戸数:2戸 	
事業内容	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(決算)	
	<p>①コントラクターを利用した耕畜連携システムの構築 今年度、新たに事業参加した3戸の農家並びに、19年度及び20年度からの継続散布として9戸の農家に堆肥を散布した。 (なお、前年度及び前々年度参加農家は継続して堆肥を散布することとなり、堆肥購入費、散布委託料は畜産農家と耕種農家の契約によるものとし、本事業費によらない。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散布量:161.1t ・散布場所:北区篠路地区、東区丘珠地区 ・散布面積:5.37ha ・散布農家戸数:3戸 <p>※継続散布分との延べ合計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ散布量:732t ・延べ散布面積:24.40ha、 ・延べ散布農家戸数:12戸 <p>②新技術現地試験圃場の設置 局所施肥技術の各作期に応じた施肥肥料の検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施品目:ホウレンソウ ・実施場所:清田区 ・実施面積:4a ・実施農家戸数:2戸 		<p>①コントラクターを利用した耕畜連携システムの構築 新たに事業参加した3戸の農家及び19年度からの継続散布12戸の農家に堆肥を散布した。 (なお、前年度参加農家は継続して堆肥を散布することとなり、堆肥購入費、散布委託料は畜産農家と耕種農家の契約によるものとし、本事業費によらない。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散布量:138.3t ・散布場所:北区篠路地区、東区丘珠地区 ・散布面積:4.61ha ・散布農家戸数:3戸 <p>※継続散布分との延べ合計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ散布量:870.3t ・延べ散布面積:29.01ha、 ・延べ散布農家戸数:15戸 <p>②新技術現地試験圃場の設置 局所施肥技術の各作期に応じた施肥肥料の検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施品目:ホウレンソウ ・実施場所:清田区 ・実施面積:2a ・実施農家戸数:1戸 	
事業規模				
事業数				
等				

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	4-2-1			事業名	環境保全型農業支援事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)	
堆肥の散布量(累計)	-	305.4t	607.2t	732.0t	870.3t	1,200t	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 (該当なし)</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力](該当なし) [人材協力]コントラクター:多忙な畜産農家及び堆肥散布機械を所有しない耕種農家に代わり、堆肥製造、堆肥散布作業を実施 [情報協力]農協:環境保全型農業に意欲的な農家の紹介、事業参加初年度以降の畜産農家と耕種農家の堆肥売買の仲介 コントラクター:良質堆肥製造方法の畜産農家への伝達 [その他の協力](該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり (該当なし)</p>							
評価(成果)			課題				
<p>①コントラクターを利用した耕畜連携システムの構築</p> <p>・最終年度の結果として、新規分と継続分の合計で目標40haのところ約7割の29haの散布となった。これは、事業途中で参加農家1戸が営農を中止した他、堆肥製造場(畜産農家)と散布対象耕種農家の位置的な条件の不一致や、近年の肥料及び飼料価格の高騰により、酪農農家での堆肥使用量が増加し、余剰牛ふんの発生が少なくなったことが理由に挙げられる。しかしながら、初年度以外の経費は参加農家の自己負担であるが、営農を中止した1戸以外は事業を継続しており、堆肥導入のためのモデル事業としての効果は高いと思われる。</p> <p>・本事業は、5年間同じ圃場に堆肥を散布し土質の変化を検証するもので、展示圃設置者からはコントラクターを利用することで堆肥の利用が可能となり、土質の改善があった等の評価を得ている。</p> <p>・本事業に参加している畜産農家は、自ら意欲的に堆肥を製造し、耕種農家に販売する動きが出て来ている。</p> <p>②新技術現地試験圃場の設置</p> <p>・局所施肥により化学肥料が慣行施肥の3割程度削減しても慣行と同等程度の収量となった。この成績は、現地講習会で活用され生産者が、現地試験で使用する播種機の製造メーカーから試用機を借りるなど自主的な取り組みが始まった</p>			<p>①コントラクターを利用した耕畜連携システムの構築</p> <p>・畜産農家所有の堆肥舎のみでは、今後耕種農家に販売する分の堆肥を製造・保管する場所が不足することが懸念される。</p> <p>・面的にまとまりがある地区での展示圃設置がほぼ終了したため、新規に参加を希望する耕種農家も地区的なまとまりがなく、堆肥散布時の車両移動等に時間がかかるようになって来ている。</p> <p>・本事業における堆肥製造量が毎年増加することにもない、堆肥製造酪農家が提供する牛ふん量では必要量の堆肥を製造できない状況となっており、別途、他の酪農家から牛ふんを購入する必要が生じている。</p> <p>・近年の飼料高騰により酪農家ではデントコーンの作付が増加し、その肥料として酪農家牛ふん堆肥の使用量が増えている。また、酪農家の廃業・移転が続き、戸数が減少するなど、堆肥の原料となる牛ふんの確保が難しくなっている。</p> <p>②新技術現地試験圃場の設置</p> <p>・手押しタイプの播種同時施肥機は現在のところ販売されておらず、実施するのは播種機の改造が必要となるため、普及に当たっては商品の開発・販売が待たれる。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>①コントラクターを利用した耕畜連携システムの構築</p> <p>新規事業参加者への堆肥及び散布費用を負担する業務については平成22年度で終了となっているが、展示圃への堆肥散布は5年間継続することから、市としては農協、コントラクター、酪農家、耕種農家などの関係者と協力し、堆肥製造の管理及び散布の連絡調整、堆肥分析、土壌調査等の支援を継続し、耕畜連携による環境にやさしい農業への転換を推進する。</p> <p>②新技術現地試験圃場の設置</p> <p>局所施肥による化学肥料を低減した栽培技術を生産者の周知するほか、取り組む生産者へ施肥設計など支援を実施する。</p>							

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		4-2-1			事業名	環境保全型農業支援事業				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	2,500	2,500	2,500	2,500	10,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
	その他の	0	0	0	0	0				
	一般財源	2,500	2,500	2,500	2,500	10,000				
予算	事業費	2,500	2,500	2,489	2,079	9,568				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
	その他の	0	0	0	0	0				
	一般財源	2,500	2,500	2,489	2,079	9,568				
実績	事業費	2,282	2,236	1,959	1,251	7,728				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
	その他の	0	0	0	0	0				
	一般財源	2,282	2,236	1,959	1,251	7,728				
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)					77.3%			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
[20年度]										
[21年度]										
[22年度] 一部条件に合致しない土地があったための減										